山ノ内町こどもワクワク教育未来ビジョン

１　学校統合における時代背景

・国内においては、児童数が年々減少を続けるなか、教育活動の少人数化や人間関係の固定化など様々な課題が生じ始めており、山ノ内町においても将来的に同様の課題が顕在化していくことが予想されます。
・人口の減少は、市町村における財政基盤にも大きく影響を与え、学校も含め公共施設の持続可能な運営が求められるなか、施設の集約化や再編が進み、全国的にも将来を見据えた学校再編が活発に行われています。
・グローバル化の進行など社会情勢が大きく変わる中で、従来の画一的な教育よりも地域の特徴を生かした多様な価値観を育むような教育が求められるなど、教育の在り方も変化しつつあります。

２　山ノ内町の特徴

・観光産業が盛んな当町は、志賀高原や湯田中渋温泉郷、北志賀高原といった観光地を有するとともに、世界的に有名なスノーモンキーが生息する「地獄谷野猿公苑」があり、海外からも観光客が多く訪れる。
・全町がユネスコエコパークに登録されるなか、豊かな自然環境や古くからの伝統・文化が継承されてきている。また恵まれた自然環境を生かし、全国でも有数の果樹生産地となっている。
・米国のベイル町など、海外の多くの地域と自治体提携を結んでおり、海外との交流が盛んとなってきている。
・長野オリンピックの開催地であり、世界に通用する競技会場を有するなか、スキーを中心にオリンピックなどの世界的な大会や国際コンクールなどで活躍する人材を輩出している。
・小澤征爾さんによる「小澤コンサート」が４０年近く山ノ内中学校で開催され、小学校では「コカリナ」の発祥の地として活動が行われるなど、音楽活動が盛んである。
・差別をなくす町民大会などを通じて町民に対して、こどもの権利や児童虐待・いじめ防止等に係る人権教育を進めるともに、啓発活動を行っている。

山ノ内町の恵まれた自然環境を生かし、先人からの歴史や文化を継承しつつ、
次世代の山ノ内町を担う人材を育成していくことが重要。

３　こどもたちに対する目指す教育

こども一人ひとりが自らの興味関心をワクワクしながら
楽しく深めることのできる学び

一人ひとりの個性を尊重し、地域に根差した体験活動や様々な人との交流を通して、世界に向けた広い視野を持ち、たくましく未来を拓き創造していくこどもたちの育成を目指す。

４　山ノ内町のこどもたちに願う姿

山ノ内町のこどもたちに願う姿

ESD の推進

- 対話的な学びを通して主体的に考え、判断行動できる。
- ふるさとに愛着と誇りを持ち、町の発展に高い関心が持てる。
- ＥＳＤが掲げる「持続可能な社会の担い手」として問題意識が持てる。

グローバル教育の推進

- 世界に羽ばたく未来の創り手として自信と意欲が持てる。
- 海外諸国の情勢や文化に視野を広げ、積極的に交流できる。
- 自分の気持ちや考えをいろいろな手段で伝えることができる。

スポーツ芸術の推進

- 心身の健康に留意し、継続的に体力向上に取り組んでいる。
- 自分の好きなことにじっくり向き合い続けることができる。
- 「自分をあきらめない」たくましさとしなやかさを育める。

人権教育の推進

- 自分らしさを大切に、自分と異なる他者の特性や価値観に共感できる。
- 家族や他者への信頼や愛情と優しさを、素直に表現できる。
- 他人と比較して自分を恥じたり責めたりしない自己肯定感を養える。

５　願う姿の実現のための４つの学び（大切にしたい山ノ内らしい４つの学び）

●ＥＳＤ（持続可能な社会の担い手になるための学び）
・山ノ内町全体をフィールドに、多様な地域資源を活用した体験重視の学びを拡げる。
・ユネスコスクールとして環境教育などに取り組むとともに、県内外や海外の学校とも積極的に交流していく。

●グローバル教育（外国語を習得し世界を学ぶ）
・世界と広く出会い、諸外国と交流できる英会話力と意欲を育み多文化共生を目指す。
・海外にルーツを持つこどもたちを迎い入れ一緒に学びあう。

●スポーツ芸術（オールシーズン、複数のスポーツと芸術に触れる）
・様々なスポーツと芸術活動を楽しみ、健康的な心と体を育む。
・スノースポーツを始め、オールシーズンで幅広い分野のトップアスリートを支える環境づくりを進める。

●人権教育（シティズンシップを育み、自立的に社会に参画する力を培う）
・こどもが自らの基本的人権を学び、社会のあらゆる差別に立ち向かえる意欲を培う。

・４つの学びは山ノ内町の「歴史・伝統文化・暮らし」を土壌とし、こどもたちの「ふるさとへの愛着と誇り」を醸成する。
・４つの学びを幼児期から大切にし、15 歳まで切れ目なくつ繋げていく。
・４つの学びの全てにおいて、「ICT 技術（情報収集、整理、分析、表現、発信）」を積極的に活用する。
・４つの学びに基づき、学校のカリキュラム、授業内容、教育活動等を教科横断的に柔軟に取り組む。

６　４つの学びにかかる基本施策

多様な体験を通じて未来につながる持続可能なまちづくりを担う人材の育成

当町は、町内の全ての小中学校がユネスコスクールに指定されるなかで、持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）の推進拠点となっており、町の豊かな自然や歴史、文化を地域と連携しながら自然体験やボランティア活動などを通じて学び、町への愛着を深める心を育むなかで、次世代の持続可能なまちづくりを担う人材の育成を推進します。

【事業内容】
・ＥＳＤ地域連携推進事業（信州型コミュニティスクール事業）
・ＥＳＤ教育コーディネーター派遣事業
・ユネスコスクール活動推進事業
・教育課程特例制度を活用した「ふるさと学習科（ユネスコエコパーク科）」の創設
・小澤コンサート事業

グローバル社会が進展するなかでの国際感覚をもった人材の育成

スノーリゾートやスノーモンキーを中心とした観光立町である当町では、年々訪日外国人も増加傾向にあり、こどもたちも日常生活の中で外国人と接する機会が増えています。また、１９９８年の長野オリンピックでは、アルペン及びスノーボードの競技会場となり、過去にはオリンピック・パラリンピックを含めた世界大会などで活躍する多くのスキー選手なども輩出してきた土壌があります。

その中で、こどもたちが世界に羽ばたき適用できるよう、英語を体験的に学習し活動することで、外国人とのコミュニケーション能力を高め、外国の言葉や文化に興味を持ち、国際感覚のある人材の育成を推進します。

【事業内容】

- 外国語指導助手（ALT）の増員
- 自治体提携している海外都市の学校との交流
- 授業時数特例校制度を活用した英語授業の充実

カラダを動かし豊かな心を育むスポーツ活動の推進

スポーツは、こどもにとって生涯にわたりたくましく生きるための健康や体力の基礎を培うとともに、公正さや規律を尊ぶ態度や克己心を育むなど人間形成に重要な役割を果たすものであります。そのため、こどもたちがスポーツの楽しさや喜びを味わえるようにするとともに、体力の向上を図るためのスポーツ活動を推進します。

【事業内容】

- スポーツ活動備品整備事業
- スキー教室等の校外学習活動の支援

誰一人取り残されない一人ひとりの学びを支える教育の推進

急速に変化する社会情勢にあって、多様な価値観の中で自ら生きるために、自らの力で未来を切り開き、変化に対応できる「生きる力」が重要であり、生きて働く知識や技能の習得、自他の人権擁護を実践しようとする意識や態度、課題を解決するために必要な思考能力・判断力・表現力などを伸ばし、自ら学ぼうとする意欲、視野を広く柔軟に対応できる人材の育成を推進します。

【事業内容】

- 情報化社会に適応した情報教育の推進（プログラミング教育、情報モラル教育など）
- 情報設備、ソフトウェアの充実（メディアルーム、ICT 機器、アプリソフトなど）
- 安心できる居場所づくりの充実（教育支援センター、不登校児童に対する学習支援）
- 少人数学習指導員、特別支援学級等の支援員の増員による学習支援
- 自分のペースに合わせた自由進度学習の導入、加配教員の配置
- インターナショナルクラスへの教育支援
- 専科教員等の配置による学習・学力向上の支援
- 人権教育の推進（外部講師の講話、人権標語、地域のフィールドワークなど）

７　９年間における一貫した教育の必要性（期待される効果）

●７歳から１５歳までの９年間はこどもが大きく成長し、社会に巣立つための様々な体験に挑戦できる重要な期間であることから、９年間の学びの連続性や一貫性を確保しつつ、町が目指す「４つの学び」の効果を最大限に発揮するため、**「小中一貫教育（義務教育学校）」**を目指していく。

学びの連続性と質の向上の観点から

- ＥＳＤ教育を９年間継続した取り組みができ、意欲・自信・忍耐力・自立心・協調力などの能力が身につく。
- ＡＬＴが充実した学校環境の中で、授業のみならず学校内で英語に触れあい、積極的に使おうとする態度を育成し英会話力を高めていく。（ALT の小中連携が可能。）
- 小学生と中学生が一緒に活動することでスポーツや文化芸術への興味が向上し、積極的な姿勢や技術、精神的な発達が図られる。
- こどもの発達段階に応じて９年間連続して人権教育を行うことで、自分や相手を尊重する心を育み、いじめや差別などの人権問題について、自ら考え人権を守ろうとする意識や態度を身に付けていく。
- すべてのこどもが９年間一緒に学校生活を過ごすことで「ALL やまのうち」の意識が醸成できる。

心身の健やかな成長の観点から

- 異学年交流（ESD 教育、運動会、音楽会、文化祭等）による精神的な発達が促進される。（下級生への手本、上級生への憧れなど）
- 小中共有の心の相談室を設けることで９年間連続した児童生徒の心のケアが図られる。
- 小中学生が一緒に登下校することで通学の安全性を確保する。（不審者、鳥獣対策）
- こども同士の協働活動や教師間の密な連携がやりやすくなる。

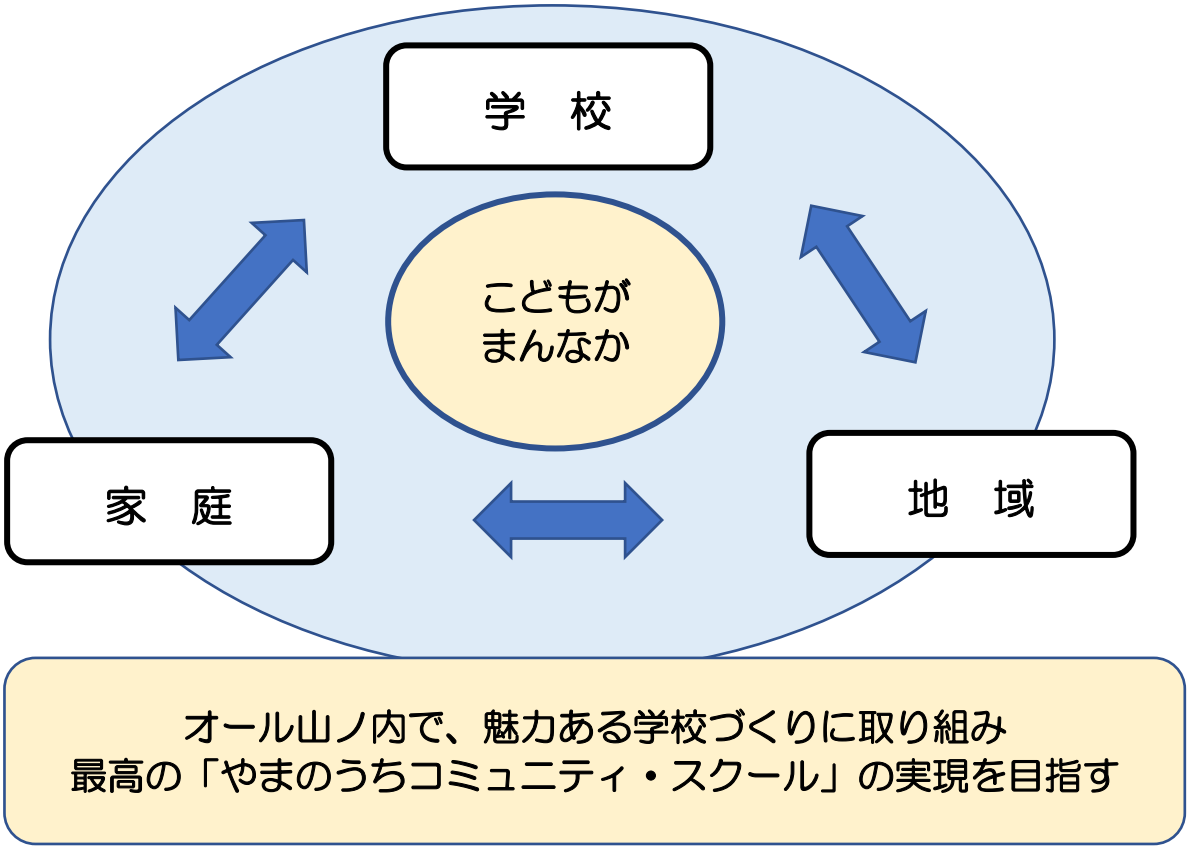
専門性・独自性を活かした高度な教育の観点から

- 教科担任制により中学校の教員が専門性を生かして小学生に授業をすることで学力の向上を図る。（小中教員同士の連携による乗り入れ授業の実施）
- 独自教科等の設置による特色ある教育が可能。

学校経営の観点から

- 教員や支援員など限りある人材を有効活用や、施設等の維持管理に係る経費を効率化・合理化が可能となり、４つの学びに集中投資できる。
- 限られた敷地と施設を最大限有効活用できる。
- 小中学校の施設を共有することにより充実した設備・備品が使用できる。
- 小中学校の行事・イベント等を同時に行うことで保護者の負担が軽減される。
- 小中学校 PTA の一本化

８　町全体でこども・教育に寄り添う「コミュニティ・スクール」

●町全域を豊かな育ちと学びのフィールドに

- 山ノ内町の地域の力と豊かな地域資源を活かして、町固有の学びを実現するため、町でしかできない魅力的で充実したコミュニティ・スクールを創る。
- ４つの地域が連携し、ひとつのコミュニティ・スクールとして学校地域運営本部（学校運営協議会）を構成し、ＰＴＡやこども会・育成会などの団体と融合していく。
- 学校は、地域全体でこどもたちを支えるシンボルとなり、学校でしかできない本来の役割に専念し、学び舎としての機能と質を最大限に高めていく。
- 町全体（学校・家庭・地域）で「こどもにやさしい町づくり」を目指す。